

# 地元へ寄り添い、命と安全を守りたい

気象庁 東京管区気象台長 眞鍋 輝子まなべてるこさん

## ◆東京管区気象台について

気象庁は、千代田区大手町にある本庁のもと、5つの管区気象台と沖縄気象台が、各道府県に置かれた地方気象台を広域にわたり管轄しています。東京管区気象台は関東甲信、北陸、東海地方を管轄し、東京都の地方気象台としての役割も担っています。

気象台では、国民の皆さんの生命財産を守るため、日々、気象観測や予報を行い、災害の防止・軽減に向けた情報を発表しています。昔に比べ予報の精度は格段に上がっていますが、大雨・洪水警報の危険度分布など、防災上、重要な情報の精度向上を目指して、技術開発に努めています。

## ◆市町村等とのきめ細かい連携

住民の命と安全を守るためには、情報を発表して警戒を呼びかけるだけでなく、情報をどうしたら活用して避難などの防災行動につなげていただけるかという点が大切です。このため、地方気象台に地域ごとの担当チーム

「あなたの町の予報官」を編成し、市町村等と顔の見える関係を築き、自治体の防災担当者などに災害時のコミュニケーションをしていただく「気象防災ワークシヨップ」を行うなど、平時からの取り組みに力を入れています。

大雨・台風などの際には、こうした平時からの市町村や都県との連携を生かして連絡を強化し、更に、大規模な災害時など、緊急時にはJ ETT（気象庁防災対応支援チーム）を現地へ派遣しています。災害後は、都県や市町村と共同で災害時対応を振り返り、フィードバックを図っています。

温暖化による気候変動が注目される昨今、皆さんにも、これまで起きなかったことも起こりうることを考え、備えていただければと思います。

## ◆仕事で大切にしてきたこと

私は海が好きだったので、地球物理と海洋物理を学び、気象庁の海洋関連の職場からキャリアをスタートしました。ジュネーブのWMO（世界気象機関）で働いた時期もあります。

管理職としては、現場で働く人を大事にすることを心掛けてきました。仕事で力を発揮してもらうには、一人ひとりが幸せでないといけませんから。

## ◆若い世代の女性へのメッセージ

気象庁の海洋気象観測船には設備を整えて女性が乗船していますし、日本最東端の南鳥島での気象観測にも女性が参加しています。防災分野でも女性の視点は重要です。昔と比べて活躍の場は広がっています。ぜひ積極的に気象分野でも活躍していただきたいです。

性別は自分を形づくる要素の一つで、物事を考え選択する背景にはあるでしょう。でもはじめから「女だから」と決めつけず、自分の考えや気持ちを大切にしてください。誰もが活躍できる社会をつくるには、女性だけで問題を語り合うのではなく、男女が一緒在世の中をどうしていくか考えることが必要ですね。

## 《インタビューを終えて》

昨年7月に本庁庁舎から移転し、清瀬で業務を開始された東京管区気象台。気象分野で活躍される方々のプロ意識に触れ、専門機関が身近にあることを心強く感じました。やはり「人を救うのは人なのでですね…。」  
(取材 高橋ゆ)



気象庁のマスコットキャラクター「はれるん」と東京管区気象台の管轄地域